

設備

工房には冷暖房もあり、充実した設備で制作に集中することができます。

陶芸設備

ガス窯 (2.0 m ³)	1 基
ガス窯 (0.5 m ³)	1 基
電気窯 (10kw)	2 基
電気窯 (15kw)	1 基
電動ロクロ	6 台
真空土練機 (磁土用)	1 台
常圧土練機 (陶土用)	2 台
石膏真空攪拌機	1 台
石膏ロクロ	1 台
ポットミル	
吹付用コンプレッサー	
電動乳鉢	



ガラス工芸設備

ガラス溶解炉	1 基
グローリーホール	3 基
作業ベンチ	3 台
徐冷炉	1 基
電気窯 (10kw)	1 基
電気窯 (22kw)	1 基
ピックアップ用電気窯	1 台
ガレージ	1 台
加工機	各 1 基
(サンドブラスター、小割切断機、 両軸研磨機、ダイヤモンド研磨機、 平盤、ウォーターサンダー、 ベルトサンダー)	



瀬戸市新世紀工芸館 研修生募集

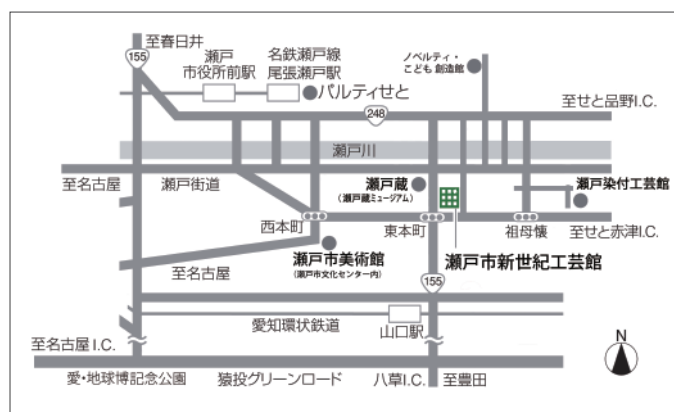


◎ 交通アクセス

- 名鉄瀬戸線「尾張瀬戸駅」から南東へ徒歩約 7 分。
- 東名高速道路「名古屋 I.C.」から車で約 30 分。
- 東海環状自動車道「せと赤津 I.C.」から車で約 10 分。

◎ 問い合わせ先

〒489-0815 愛知県瀬戸市南仲之切町 8 1 番地の 2
TEL: 0561-97-1001 FAX: 0561-97-1005
URL: <http://www.seto-cul.jp/new-century/>
E-mail: sinseiki@gctv.ne.jp



■ 研修活動について

新世紀工芸館の研修では、一定のカリキュラムを持たず研修生が自己課題を設定し、目標に向かって2年間の制作活動を行います。

年に数回、研修生の要望を参考に講師を招き、ワークショップや作品講評、スライドレクチャーなどを行います。

また、当館で行う事業に研修活動の一環として協力、参加していただくため、定期的に開催する体験教室でのアシスタントや、瀬戸市最大のイベントであるせもの祭では展示販売などを行います。

■ 研修制度概要

定員	陶芸コース	：若干名
	ガラス工芸コース	：若干名
研修期間	2年（2020年4月から2022年3月まで）	
休館日	火曜日（祝日の場合翌平日）、年末年始	
研修時間	午前10時から午後6時まで （ガス窯焼成に伴う時間延長は認められます。）	
研修費用	研 修 費：月額 20,950 円	
	燃 料 費：使用実績に基づき1割を負担 （9割は瀬戸市が負担）	
	原材料費：個人負担	
	道 具：工房設備、備品以外の道具は個人で用意	

燃料費負担額の目安

陶芸電気炉（10kw）	本焼き	360 円程度
陶芸ガス窯（0.5 m ³ ）	本焼き	700 円程度
ガラス溶解炉（1ヵ月）		3,400 円程度
ガラス徐冷炉（1ヵ月）		370 円程度
グローリーホール（1ヶ月）		1,400 円程度
※使用の仕方により変わります。ガスボンベ等も負担有。		

■ 展示

研修生が日常的に展示販売ができるスペースを設けています。

また、毎年年度末には日頃の研修活動の成果を発表する展覧会を開催し、期間中には特別講師を招いての講評会を行っています。



■ ワークショップ

年に数回、研修生の要望を参考に陶芸・ガラス工芸に限らず様々なジャンルの作家や学芸員、ギャラリストの方などを特別講師として招き、ワークショップや作品講評、スライドレクチャー、工房見学などを行っています。

近年の特別講師

陶芸作家

加藤清之（陶芸作家）
長江重和（陶芸作家）
板橋廣美（陶芸作家）
西村陽平（日本女子大学教授）
梅本孝征（陶芸作家、愛知県立芸術大学教授）
駒井正人（陶芸作家）
穴山大輔（陶芸作家）
松永泰樹（陶芸作家）

ガラス作家

本郷仁（富山ガラス造形研究所教授）
辻和美（ガラス作家）
Peter Ivy（ガラス作家）
井上剛（大阪芸術大学非常勤講師）
江川野智典（ガラス作家）
艸田正樹（ガラス作家）
西山芳浩（ガラス作家）

その他、学芸等

唐澤昌宏（東京国立近代美術館工芸課長）
土田ルリ子（サントリー美術館学芸副部長）
大長智広（京都国立近代美術館学芸員）
正木なお（ギャラリスト）
小島久弥（現代美術家、ギャラリスト）

■ 研修修了後の進路

陶芸コースの修了生の多くは、瀬戸市内の貸工房を利用したり、個人工房を設立するなどして制作活動を行っています。ガラス工芸コース修了生も、工房への就職や個人工房を設立するなどして制作活動を行っています。

また、他研修施設や大学、大学院へ進学するなどしてさらなる向上を目指す修了生もいます。

